

●天国への手紙 1月28日放送分

ラジオネーム 馬の双子

タイトル「となりのお兄ちゃん」

となりのお兄ちゃんとの出会いは、僕が小学1年生、お兄ちゃんが3年生の時。家族で引っ越した先の団地で、隣に住んでいたのが、あなたの一家でした。初めて話しをしたのが、引っ越して1週間くらいたった頃でしょうか。

学校からの帰り道、「あれ、隣のうちの子だよね。一緒に帰ろうか」と声をかけてくれて、帰宅後にそのままお兄ちゃんの家遊びに行つて、

ボードゲームやミニカーで遊んで、ドラえもんのコミック本を読んで、あつという間に時間が過ぎて。。。

それからというものが、お兄ちゃんの家で全巻揃っていた、ドラえもんを読むのが楽しくて、しょっちゅう遊びに行つたものです。

あのとときの僕には、まだ1歳の妹がいて、両親は妹にかかりつきり。

何かあれば「お兄ちゃんなんだから我慢しなさい！」と言われてばかり。

そんな僕にとって、2歳年上だった隣のお兄ちゃんは、ホントに頼もしい兄貴分。

一人っ子だったお兄ちゃんも、「弟ができたみたいだ」っていつも笑っていましたよね。

でも、そんな日々は長くは続かず、

お兄ちゃんが小学校を卒業する前に、一家は隣町へ引っ越していくことに。

引っ越しの数日前、お兄ちゃんの家で玄関前に出されていた、おもちゃとコミックたち。

「捨てることになったから、欲しかったらあげるよ」と言われ、

あのとときもらったドラえもんのコミックは、まだ我が家の本棚に並んでいます。

うちの子供たちも、小さなころに夢中になって読んでいたものです。

そして、あれ以来一度も会うことの無かった、あなたの早すぎる訃報を、最近風のうわさで聞きました。

子どもたちが就職や進学で家を出て、しばらく誰も読んでいなかったドラえもんを、今、また1巻から読み直しています。

1ページ読むごとに、わくわく感、懐かしさ、さみしさなど、

色々な感情が沸き上がってきて、なかなか前に進むことができずにいます。

読み終わるまでには、まだかなり時間がかかりそうです。

【リクエスト】星野源「ドラえもん」